

平成30年度授業アンケート 結果概要

調査の概要

(1)趣旨

○子ども(幼児・児童・生徒)たちは、学校生活の大半を授業で過ごします。したがって、学校において授業改善の取組みが進むことで、「魅力的な授業」「わかる授業」が多く行われれば、子どもたちの学校生活はおのずと充実したものとなります。

○学校においてより良い授業が行われるためには、まず、教員自身がめざすべき授業とは何かを考えつつ、旺盛な改善意識を持って日々授業改善に取り組むことが大前提となります。

○次に大切なのは、子どもたちによる授業の受け止めです。子どもたちが授業をどのように感じたのか等を、本授業アンケートにより把握することで、授業が魅力的なものであったかどうかを客観的にとらえることができるようになります。

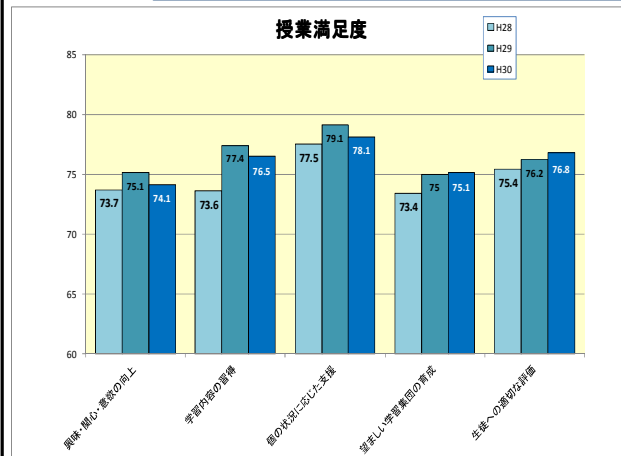
○授業アンケートは、授業が子どもたちにとって「魅力ある授業」「わかる授業」になっていたかを評価する貴重なツールであると考えます。

(2)実施日 平成30年7月6日(金) (3)アンケート数 回収総数 301人/320人(実施率 94.1%)

(4)内容 府教育委員会が示している5観点として実施

- 興味・関心・意欲の向上 : 授業を受けて、その内容をもっと学習しようと思えますか。
- 学習内容の習得 : 授業を受けて、その内容はわかるようになりましたか。
- 個の状況に応じた支援 : 授業の内容がわからないときやもっと知りたいとき、そのことについて教えてもらえますか。
- 望ましい学習集団の育成 : 授業中は、質問や発表などがしやすい雰囲気ですか。
- 生徒への適切な評価 : 授業で頑張ったことをきちんと認めてもらえますか。

授業満足度(府教育委員会の尺度による)比較



全項目を平均すると昨年度の数値を下回っている。しかし、どの数値も標準的な値は超えていると思われる。「望ましい学習集団の育成」「生徒への適切な評価」の項目は、年々上昇している。今後さらに、授業研究、授業改善を進めていきたい。

今後の取組みの方向性

平成28年度より、生徒の学力向上にむけて中学校区が一体となり自学自習等の取組みをすすめています。授業改善では、本校はグループ学習を取り入れています。そのなかでは、生徒同士のつながりを大切に、つながり・学び合うことで学力とともに自己肯定感も高まるよう取組みをすすめています。

グループ学習でのルール

- まずは自分で考える
- わからなければ、グループのメンバーに尋ねる
- 人の話を真剣に聴く
- 声の大きさは、レベル「2」「3」で話す

観点別回答状況

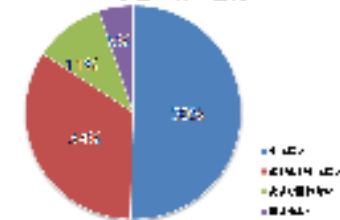


府教育委員会が示している5つの観点ごとに「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「思わない」とそれぞれ回答した人数(全学年)の割合を示しています。また、右の数値は肯定的回答(「そう思う」「だいたいそう思う」)をした割合の3年間の推移を表しています。

興味・関心・意欲の向上



学習内容の習得



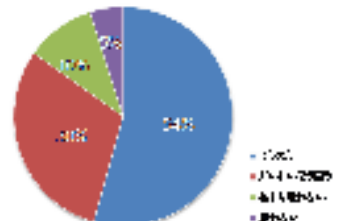
◆意欲の向上

H30 82%
H29 83%
H28 82%

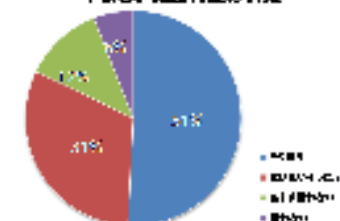
◆内容の習得

H30 84%
H29 84%
H28 81%

個の状況に応じた支援



望ましい学習集団の育成



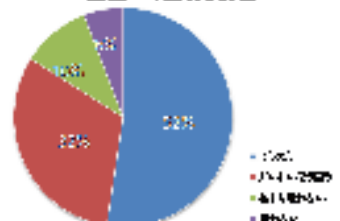
◆個に応じた支援

H30 84%
H29 86%
H28 85%

◆集団の育成

H30 82%
H29 84%
H28 80%

生徒への適切な評価



◆適切な評価

H30 84%
H29 84%
H28 84%

「そう思う」「だいたいそう思う」の肯定的回答をした割合は、この3年間に80%を超える高い数値を維持している。教員が行っている授業改善が生徒側にも十分伝わっていることがわかる。今後も引き続き、「主体的・対話的で深い学びの実現」にむけた授業づくりの研究実践をすすめていきます。